

## 1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準学力分析検査において、標準偏差値48以上にする。

## 3. 指標にむけての取組

- 授業での思考活動の充実と単元をつくりの充実を図るための校内研修、授業研修の実施。
- 授業改善の日常化を図るための相互授業参観週間の設定。
- 朝学習と家庭学習連動させた学習習慣の確立。
- 家庭学習とメディアの使用に関する内容の学級活動の実施と生徒・保護者への啓発。

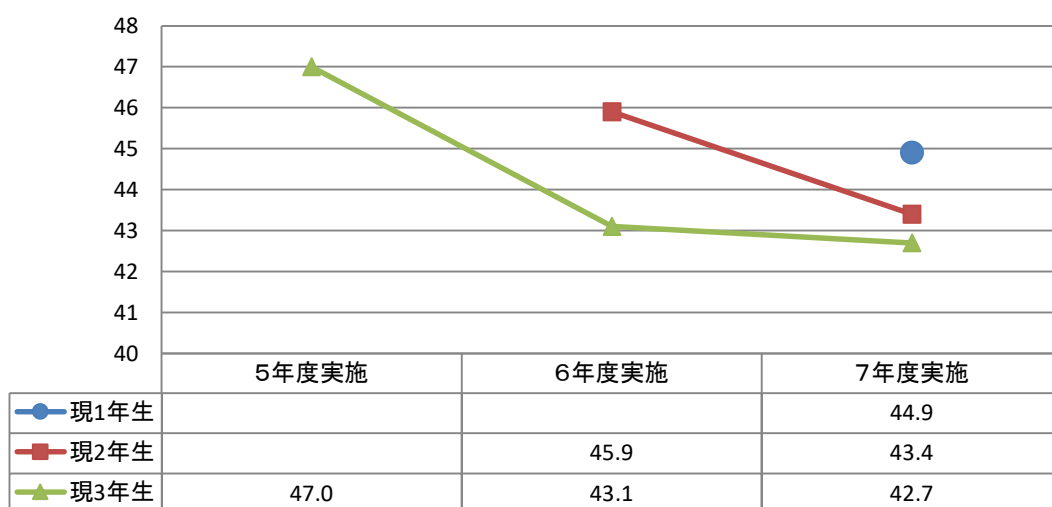
## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移

(標準偏差値50に対して)

年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
本校(A)	47.9	47.6	46.6	44.4	43.7
嘉麻市(B)	47.1	46.0	45.5	45.8	45.8
(A)－(B)	0.8	1.6	1.1	-1.4	-2.1
標準偏差値との差 (A)－(50)	-2.1	-2.4	-3.4	-5.6	-6.3

## 各学年の推移



## 5. 各学校における分析

- 授業のグランドデザインについての研修や教員同士の授業参観を行うことで、自分自身の授業改善をする必要があると考える教員が増えた。
- 単元テストや考査のテストの質の向上や評価についての共有が不十分であった。
- 朝学習の目的の共有化ができておらず、集中して学習に取り組めていない生徒がいた。
- 家庭学習の習慣化ができておらず、アンケート結果から平日、休日ともに家庭学習の時間が短い生徒が多い。

## 6. 各学校における今後の取組

- 全教員が授業のグランドデザインの各場面の意味についての理解を図るために、研修や授業研修を行い、授業改善を行っていく。
- CD層生徒を中心とした支援を行うために、中間・期末考査やフクトのテストの分析を行う研修や教科部会を実施していく。
- 朝学習を数学と英語に焦点化し、基礎・基本の充実を図るために全教員で支援していく。
- 家庭学習の充実を図るために、各教科での家庭学習の推進や各学年での学ぶ意欲の向上を図る取組を実施する。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 単元テスト導入により短いスパンにて子ども達の状況を把握し、個に応じた指導を充実させることで、その単元における基礎的・基本的な内容を確実に身につかせていくとともに、授業改善を図っていく。
- 家庭学習の習慣化と効果的な家庭学習の設定について改善を図っていく。
- 上記の2点について、嘉麻市学力検証委員会において各校の取組を交流することで、各校における確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、充実を図っていく。